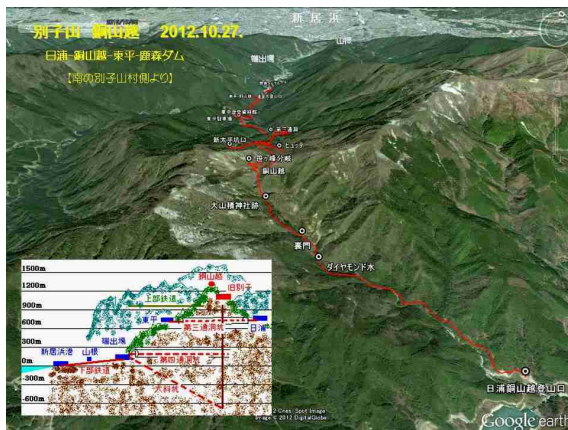




別子山の南側 足谷川沿いの谷に旧別子銅山跡が埋まっている また、別子山の稜線を越えて北の新居浜へ銅を運ぶ銅の道があった 2012.10.27.

この別子銅山が近代化される前 別子山の南北両側の銅山をつなぎ、最短距離で新居浜の港までを結び、銅山の隆盛を支えた銅の道「銅山越・泉屋道」があった。

銅山を経営する泉屋（住友）によって建設され、銅山の隆盛を支えた「銅の道-銅山越・泉屋道-」別子銅山の近代化以前 別子山の稜線を越えて南北両側の銅山をつなぎ、さらに最短距離で新居浜の港まで人馬一体となって銅鉱石を運んだ「銅の道」である

煙害で丸裸になった四国別子銅山の別子山は 100 万本を越える植林推進と約 100 年近くを経て 今 緑の山が復活。旧別子銅山跡の産業遺産が自然の森の中に埋まっている。

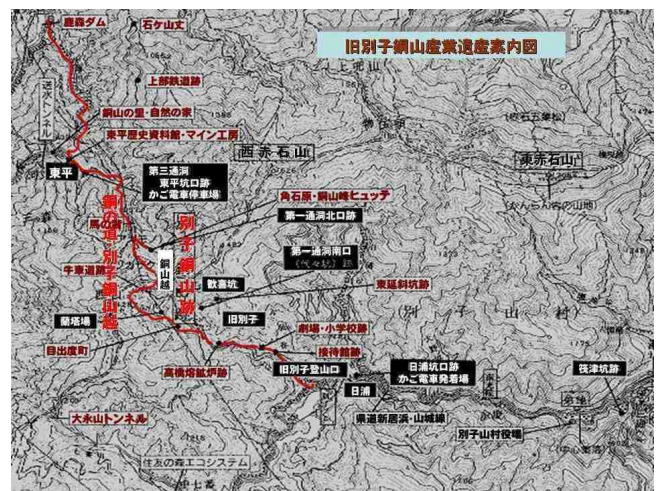
別子山の稜線を越えて 南から北へ伸びる銅山越の銅の道は今も古き旧別子銅山跡を巡り、別子山を訪ねる静かな登山道として整備され、緑の森の中に健在。私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。 前日 松山へ行った帰りにあわせ、全山紅葉に彩られた 10 月 27 日この銅の道を歩きました。

紅葉の山の中に埋まる旧別子銅山。 かつて、亜硫酸ガスで丸裸になっていた山々 そして旧別子 別子山村の役場もあった大集落や・大銅山の鉱山諸施設などの産業遺産がこの山の中に点在していたとは信じがたい。今は別子の自然の中に溶け込んで「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる素晴らしい景観を作っている。以前 2005 年秋別子銅山記念館・別子マイントピアを訪れた時に、タクシーで銅山越登山口まで行ったのですが、交通事情が悪く、残念ながら旧別子銅山跡を訪ねる銅山越ができず、タクシーでそのまま戻りました。私にとっては念願の別子山銅山越 Walk。別子山南側日浦登山口から別子山稜線「銅山越」に登り、新居浜側「東洋のマチュピチュ」と呼ばれる別子銅山東平を経て、鹿森ダムサイト登山口まで 紅葉した谷に沿って続く銅の道 旧別子銅山の遺構 集落跡や銅山諸施設の産業遺産をゆっくりながめながらの walk。 念願の別子銅の道・銅山越を踏破しました。

別子山銅の道 Walk の道々でデジカメに撮り、スライド動画の映像資料にしましたので、少し大部ですがご覧ください。なお 最近住友林業（株）の TV コマーシャルにこの旧別子銅山跡が自然再生の森として紹介されています。



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山「東平」地区



別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/bassi/Qbassi/00data/miti/miti.html> 8. <http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm> より



● 上部鉄道 角石原-石ヶ山丈 明治44年(1911) 10月7日 廃止
● 下部鉄道 惣開-一端出場 昭和52年(1977) 2月1日 廃止

(泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。
別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山城を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱崎越で運ばれていた。

(新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川鉱山の経営不振により、立川鉱山が住友の請負鉱山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた

二次泉屋道 元禄15年(1702)～寛延2年(1749)

足谷-東延-西赤石南側-雲ヶ原-西赤石と上兜山の間-石ヶ山丈-立川中宿-新居浜口屋

三次仲持道 寛延2(1749)年～明治13年(1880)

足谷-銅山越-角石原-馬の背-御番所-東平-一端出場-立川中宿-新居浜口屋

(牛車道)

牛車道 明治13年(1880)～明治26年(1893)

足谷山-銅山越-角石原-石ヶ山丈-立川中宿-新居浜口屋

(第一通洞→上部鉄道→索道→下部鉄道)

◆ 明治26年(1893)～明治38年(1905)

足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開精練所

馬車 牛引籠車 上部鉄道 索道 下部鉄道

◆ 明治38年(1905)～明治44年(1911)

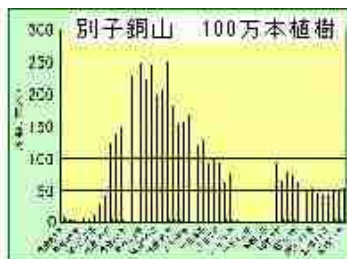
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開=四坂島

馬車 牛引籠車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が日浦-東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)



別子山緑の自然の中に静かにうずもれている旧別子銅山 & 銅山と積出港 新居浜結ぶ銅の道・別子山銅山越



「別子全を 旧のあおとした姿にして これを大自然にかえさせねばならない」 明治30年ごろ 伊庭貞剛

明治半ばから始まった 銅山の煙害で丸裸の別子の山を緑の山へ 100万本の植林運動 約100年を経て 別子山に緑が復活



東平第三通洞北口



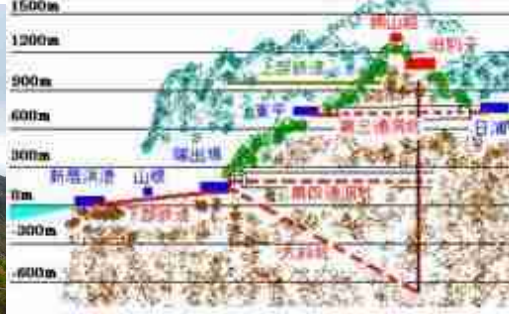
東平貯鉱庫跡



東平索道の停車場



東平歴史資料館・マイン工房



別子山 銅山越



足谷集落跡



足谷 小学校跡

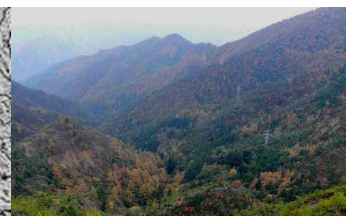
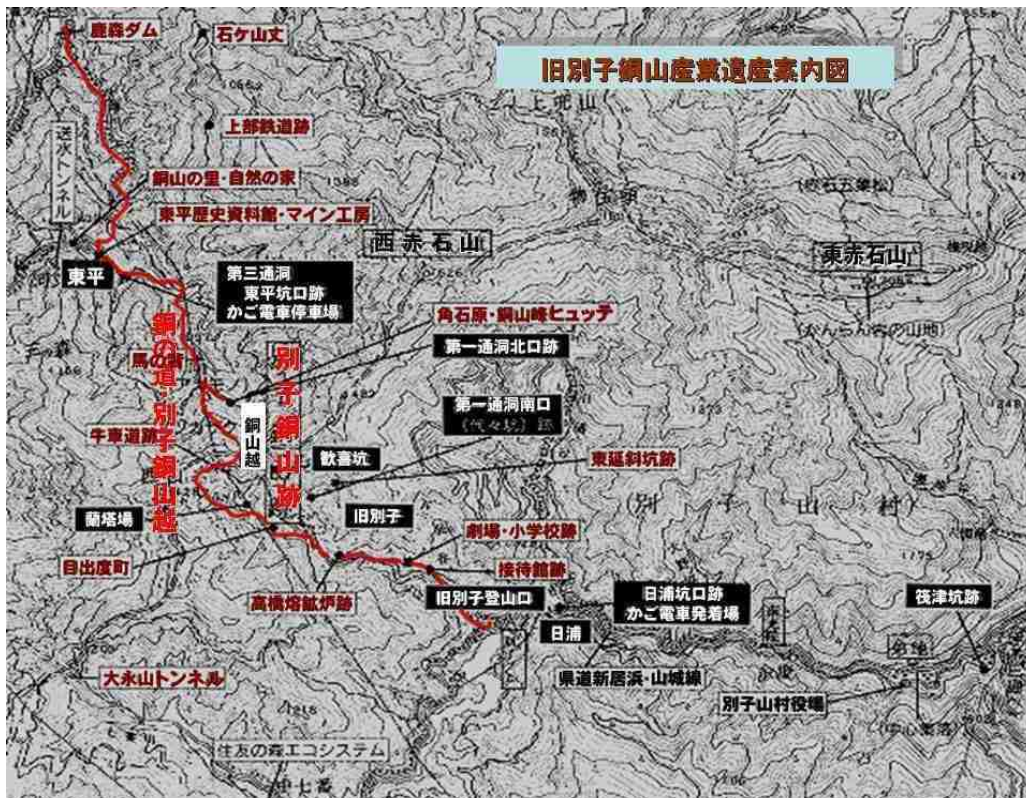


高橋製錬所跡



銅山越／目出度町 牛車道

東西に伸びる別子山の南北両側の山腹・谷に広がる旧別子銅山の産業遺産

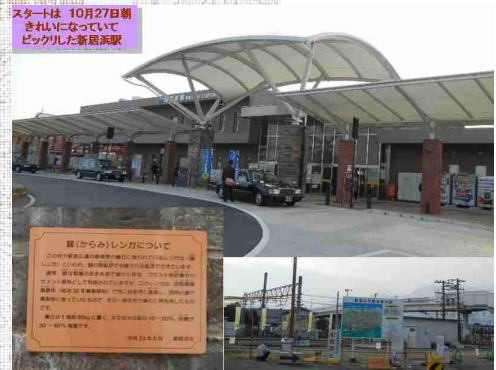


【参考】Country Walk・風来坊 2005年11月
「四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk」
- 赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村 -
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf>

<<写真アルバム>>「別子山銅の道・銅山越」Walk 2012.10.27.

別子銅山 銅の道 銅山越 walk の写真を抜粋して掲載しました

1. 新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう
2. 別子山村日浦登山口から足谷川沿いの溪谷沿い旧別子銅山跡をたどって 別子山の頂 銅山越へ
3. 別子山頂上稜線 銅山越
4. 銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ
5. 東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区
6. 東平からかつての生活道 旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



スタートの新居浜駅
駅前上屋の柱にモニュメントとして旧別子銅山の
カラミ煉瓦が使われていました



別子銅山 銅の採掘は東西に横たわる別子山の山頂部からほぼ垂直や斜めに山体の中に伸びてい銅鉱床に向かって南北両側の山腹から掘り進められた。
したがって 銅山の坑口や集落・諸施設は この南側旧別子と新居浜側立川(角石原・東平など)の谷沿いのくぼ地にあり、最盛期には「通洞」と呼ばれる大きな水平坑道が三体をぶち抜き、山を越えることなく両側の坑道や諸施設・集落がつながれていた。
それまでは人馬一体となって別子山を越えてゆく厳しい「銅の道・別子銅山越」の仲持道が南から北の新居浜へと続いていた。



1. 新居浜駅から地域バスで国領川沿いを南側の旧別子銅山跡登山口日浦に向かう



国領川沿いの別子ライン渓谷をまっすぐ北に溯るとそこはもう旧別子銅山の領域 鹿森ダムからジグザクによって大永山トンネルを抜けて別子山村側へ



大永山トンネルを抜けると紅葉した銅山川渓谷 川向こうには四国脊梁石鎚山脈の岩峰が建ち並ぶ 別子ダム湖が見るとまもなく日浦の登山口

2. 別子山村日浦登山口から足谷川沿いの渓谷沿い旧別子銅山跡をたどって 別子山の頂 銅山越へ



銅の道(1) 別子山村日浦登山口入口周辺



銅の道(2) 小足谷集落周辺 円通寺跡・小足谷集落跡・接待館跡



銅の道(3) 小足谷集落周辺 小学校・劇場・小学校



銅の道(4) 紅葉が美しい足谷川の溪谷 溪谷に沿って北の別子山の稜線銅山越へと銅の道が続く



銅の道(5) 旧別子の中心地 製錬所(熔鉱炉)があった高橋(1) 谷筋の対岸に見える製錬所跡の石垣



銅の道(6) 旧別子の中心地 製錬所(熔鉱炉)があった高橋(2) ダイヤモンド水の広場には木炭倉庫や製錬課 対岸に焼鉱炉



銅の道(7) 高橋周辺の谷筋 紅葉した溪谷が美しい。すぐ上の橋で、谷を渡って寛政谷から銅山越へ向かう道とそのまま山腹を目出度町から銅山越へ行く道の分岐点 銅山越はもうまじかかつては鉱石を焼く煙・重硫酸ガスで山は丸裸、今産業遺産となった諸施設は自然の中にうずまっている



銅の道(8) 目出度町 対岸の木部の集落跡を眺めながら山腹を幾つか枝谷を渡ると旧別子の中心 目出度町 明治になるとこの目出度町から銅山越へ牛車道が開通する 大山神社や重任局がおかれ、別子山村の役場、住友の接待場 街には学校・郵便局・料亭が軒を並べ、病院もあったという。



銅の道(9) 目出度町から銅山越下の牛車道へ

林の中の目出度町跡を抜け、送電鉄塔沿い尾根筋に登ってゆくと視界が開けてくる。登ってきた谷筋の紅葉が美しく、周囲の山々が遠くまで見晴らされる。そして、不意に広い牛車道に合流した。



銅の道(10) 銅山越下の牛車道

登ってきた美しい谷筋の景色を眺めながら牛車道を登る。旧別子銅山の産業遺産が、この紅葉した谷筋の森の中にうずまっている。

3. 別子山頂上稜線 銅山越



銅の道(11) 別子山 銅山越



4. 銅山越から馬の背を下って東洋のマチュピチュと呼ばれる「東平」旧別子銅山跡へ



銅の道(12) 角石原

銅山越から新居浜側へ下った別子銅山の別子浜側中心地のひとつ。今は広場に銅山ヒュッテが建つ。明治になると角石原を通過して、石西赤石山の山腹から、柳谷川の谷の上方を石丈ヶ山へ下る牛車道が開通し、さらに第一通洞が開通すると角石原と石丈ヶ山を結ぶ上部鉄道が開通する。



銅の道(11) 新太平坑坑口に立寄ったあと馬の背・泉屋道を旧別子銅山「東平」下る

5. 東洋のマチュピチュと呼ばれる第三通洞を通じた旧別子銅山輸送の中心「東平」地区



銅の道(12) 東平(1) 第三通洞・かご電車

鉱床がどんどん深くなり、この東平から第三通洞が別子山村側日浦まで通じた。また、ここから索道で下に鉱石を輸送する新しい輸送システムが開通。一般の人をも乗せるかご電車も走り、別子山村側と新居浜を結ぶ大搭脈となった。



銅の道(13) 東平(2) 今の中心

東平歴史資料館・駐車場・メイン工房。現在、新居浜と別子山村を結ぶ別子ラインの県道鹿森ダムの横から行き違いが厳しいが、東平へ登る車道が通じ、車だと気楽に??? 東平まで、はいれるようになっている。



銅の道〈14〉東平の象徴旧別子銅山の産業遺産群 インクライン・索道停車場・貯鉱庫

6. 東平からかつての生活道 旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



銅の道〈15〉東平から旧道を鹿森ダム遠登志登山口に下る



銅の道〈16〉鹿森ダム 遠登志登山口周辺



銅の道〈16〉鹿森ダム 遠登志登山口周辺



銅の道〈17〉新居浜駅 新居浜駅まで戻った時はもう夕闇 別子の山のシルエットが駅の向こうにみえました

前回別子を訪れたときには、交通事情の心配で、銅山越の道をたどれなかった念願の別子山銅山越。ここに有名な別子銅山が本当に会ったのかと疑うほどに、その集落跡・跡施設産業遺産が、紅葉した別子の自然の中に溶け込んで、新しい景観を作っていました。当初、天候と交通手段の不安一杯のスタートでしたが、いろんな人にも出会え、楽しい銅山歩き。前回もビックリしたのですが、別子山村・銅山越の紅葉は素晴らしい。へとへとになりましたが、満足の銅山越Walkでした。

2012. 10. 27. 夕 別子ラインを新居浜へ 帰りのタクシーの中で

【参考】Country Walk・風来坊 2005年11月
「四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk」
赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村
<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf>

別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/forest/forest00data/mid/mid.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/nomura/bombers.htm> より



(泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことです、それより60年も前の寛永年間より銅山麓の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採掘されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間隔は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山城を通らず、手塚郡の地域内から赤石連山の東麓の小箱峠で運ばれていた。

(新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)
住友の長年にわたる幕府への横断と立川銅山の経営不振により、立川銅山が住友の請負鉱山となり、やがて元禄年間には西赤石山越として銅山越の道が開かれた

二次泉屋道 元禄15年(1702)～寛延2年(1749)
足谷・東延・西赤石南側・豊ヶ原・西赤石と上赤石の間
→石ヶ山又・立川中宿＝新居浜口屋

三次仲持道 寛延2(1749)～明治13年(1880)
足谷・銅山越・角石原・馬の背・御番所・東平・端出場
→立川中宿＝新居浜口屋

(牛車道)

牛車道 明治13年(1880)～明治26年(1893)

足谷山→銅山越→角石原→石ヶ山又→立川中宿＝新居浜口屋

(第一通河→上部鉄道→索道→下部鉄道)

◆明治26年(1893)～明治38年(1905)

足谷山→第一通河→角石原→石ヶ山又→打除＝惣開精練所

◆明治38年(1905)～明治44年(1911)

足谷山→第一通河→角石原→石ヶ山又→打除＝惣開＝四反島

馬車 牛車 馬車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通河が日清・東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ

別子山 銅山越 2012.10.27.

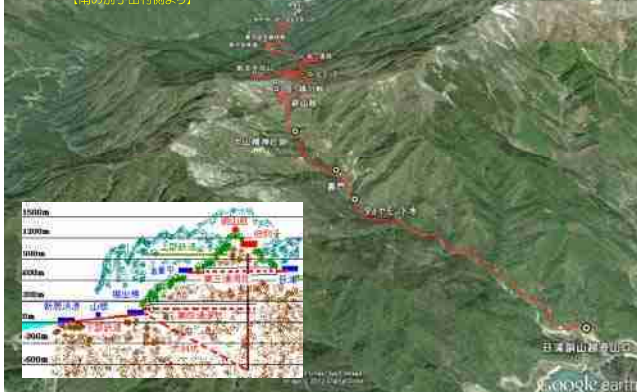
日清・銅山越・東平・鹿森ダム



別子山 銅山越 2012.10.27.

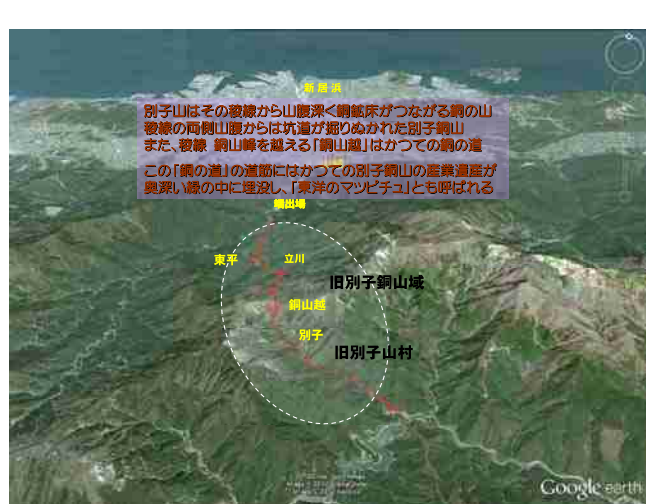
日清・銅山越・東平・鹿森ダム

【南の別子山村側より】



旧別子銅山の産業遺産が眠る別子山 この別子山 山越の銅の道 「銅山越」

紅葉した別子山 念願の銅山越・銅の道を歩きました 2012.10.27.



別子山はその發跡から山腹深く銅脈床がつながる銅の山、發跡の両側山腹からは坑道が張りめぐれた別子銅山、また、被線 銅山峰を越える「銅山越」はかつての銅の道、この「銅の道」の道筋にはかつての別子銅山の産業遺産が奥深い森の中に登壇し、「東洋のマツピチュ」とも呼ばれる

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。



別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。

別子銅山跡の鳥瞰図
中央のハッチング部分が銅山峰の發跡で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。
四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。



紅葉が進む山腹をジグザグに登って 別子山の西端を大永山トンネルで南へ入り抜ける 2012.10.27.



大永山トンネルを抜けると 銅山川が東へ溪谷を流れ下る別子山村
笹ヶ峰から石鎚へと続く四国脊梁の山並を眺めながら東へ 2012.10.27.



別子山の背後 四国の脊梁 石鎚山脈の荒々しい岩稜の山並も見えてくる 2012.10.27.



銅山川 別子ダム湖が見えてくるともうまもなく日浦の登山口 2012.10.27.



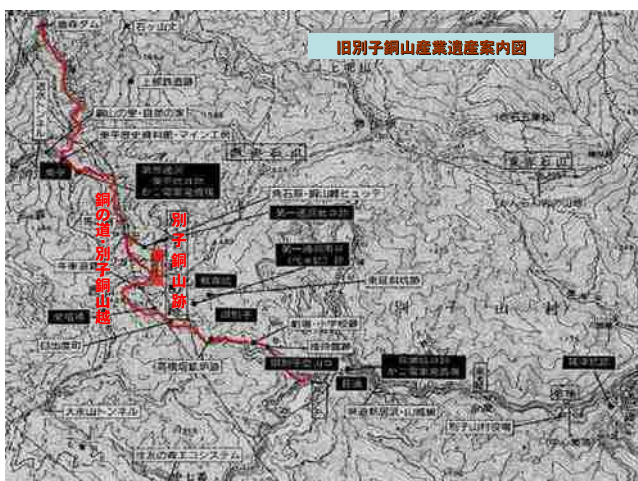
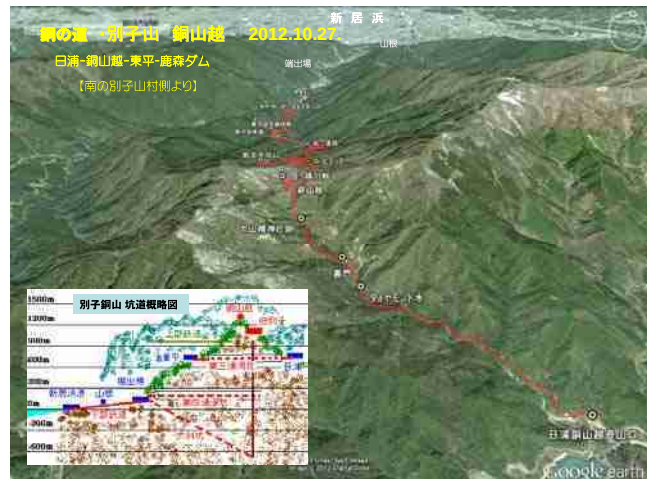
別子山村側 銅山川沿いの紅葉が素晴らしい 2012.10.27.



日浦登山口 銅山越・銅の道の案内板より



日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口 2012.10.27.





日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口 2012.10.27.



別子山に 旧別子銅山集落



別子山村 日浦登山口 2012.10.27.
旧別子銅山の産業遺産を訪ねつつ、
別子山を新居浜側に越えてゆく
銅山越・銅の道walkのスタートです

日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口 2012.10.27.



東平地 旧別子銅山 集落 概略図



登り口にあった別子ダムと旧別子銅山登り口の案内板
また、登り口で出会った土地の人は 昔 銅山が華やかな頃には 日浦からは通洞
の中を走る電車が有り、銅山越せず、この電車で東平によく出たもので、別子山村は
今よりもっと便利だった。



銅の道 銅山越・旧別子銅山跡 登山道 日浦入口周辺 2012.10.27



銅の道・銅山越 旧別子銅山跡 日浦登山口入口 2012.10.27.



銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.



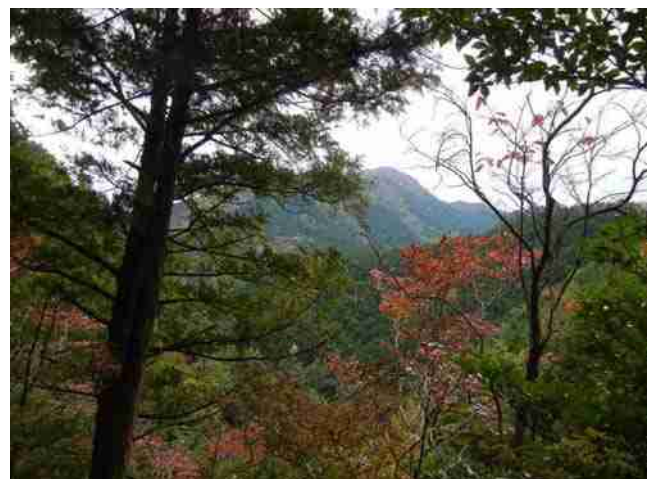
銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.

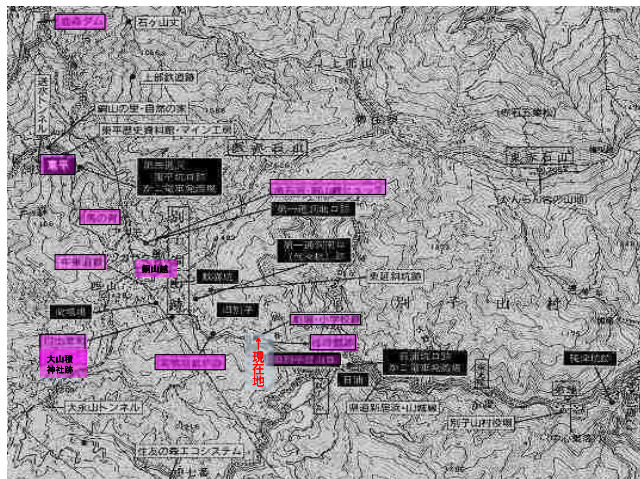
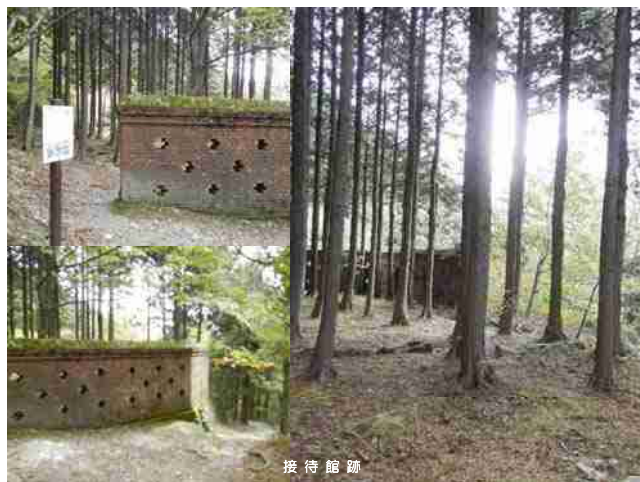


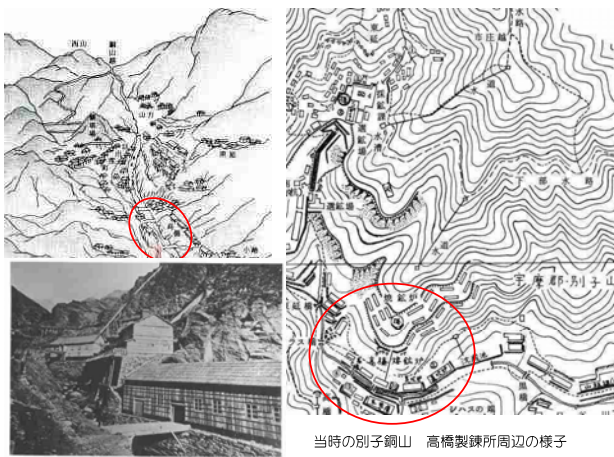
銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.
登山道では 旧別子銅山の遺構が残る場所 それぞれに遺構案内板が整備されている



小足谷集落跡と味噌・醤油醸造所跡周辺



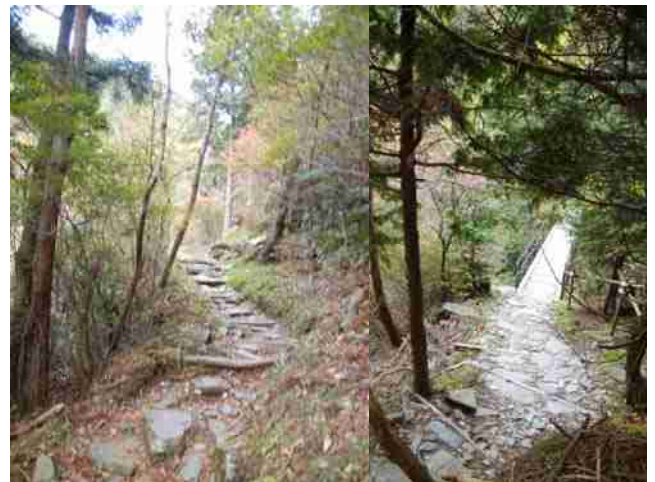








谷の分岐点近くトラス橋に近づくときと視界が少し広がる



谷の分岐点近くトラス橋 2012.10.27.



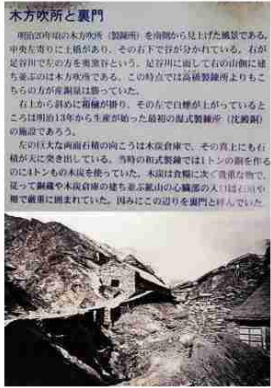
谷の対岸に焼鉱炉群跡 かつて銅山盛衰期には山は亜硫酸ガスで丸裸で、焼鉱炉も一箇されたと思われるが、今は紅葉した自然の中になすもれている



谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く旧出度町経由の谷筋分岐点 2012.10.27.



銅山越の尾根筋が見えてきた 2012.10.27.



木方吹所と裏門
 明治39年頃の木方吹所（製錬所）を南側から見上げた風景である。中央左側に上樋があり、その右下で谷が分かれている。右が足倉川でその方を奥栗谷という。足倉川に沿って右の山側に建ち並ぶのは木方吹所である。この時点では高橋製錬所よりもこちらの方が集落は盛っていた。
 右上から斜めに新樋が掛り、その左で白樺が上っているところは明治13年から生産が始った最初の製式製錬所（沈殿製）の施設であろう。
 左の大きな両面石樋の向こうは木炭倉庫で、その真上にも白樺が天に突き出している。当時の和式製錬では1トンの炭を作るのに2トンもの木炭を焼いていた。木炭は食糧に次ぐ貴重な物で、従って製錬や木炭倉庫の建ち並ぶ麓山の裾野の入り口は当時、櫓で厳重に囲まれていた。因みにこの辺りを裏門と呼んでいた。

パイプ橋周辺 谷の対岸奥谷經由鶴山越へ行く谷筋と山腹をそのま行く白出度町經由の谷筋分岐点 対岸に木方吹所跡 2012.10.27.



対岸 木方集落跡 今は樹木にうずまっている

白出度町から鶴山越のルートをたどる 2012.10.27.







随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.



登って来た小足谷川の最上部 随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.
遠く南東方向 別子ダムの向こう 冠山・平家平の山並が見えている



笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標



銅山越直下より 蘭塔婆山の遺構が見える



牛馬道 銅山越 尾根筋のすぐ下のトラバース道 2012.10.27.



銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.



銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の基所 蘭塔婆山の遺構が見える
かつて この谷筋には別子銅山の補施設・街が建ち並んでいた



銅山越より 日浦から登りつめた小足谷の谷筋 2012.10.27.
この紅葉した樹木の中に旧別子銅山跡が埋まっている



銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.



銅山越
新田 寛政



銅山越
新田 寛政

銅山越えからの眺望 2012.10.27.



新田 寛政

別子山村側



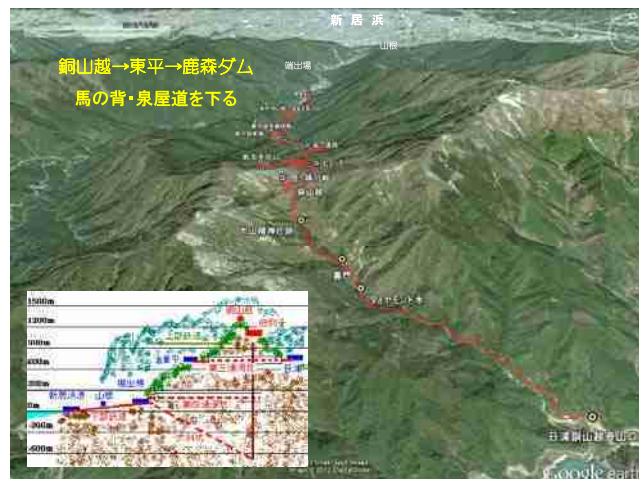
銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平坑から山腹を下る道がある
今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を控えていて、
短距離ですが、よくこの道を騎を降りてゆくののだと。
でも 取り囲まれた急な斜面の山の上腹に忽ちとあらわ
れた「東平」の姿が望まれ、とても印象的な景色でした。



銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1東側の牛車道 2まっすぐ峠を
越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3角石原から西
側の太平坊から山腹を下る道がある
今頃は馬の背をまっすぐ下る泉屋道を降りましたが、ほかの
道と違って急な降り道が馬の背を落とすべく、
短距離ですが、よくこの道を騎を担いで降りたものだ。
でも 急に鞍が揺れたとき急斜面の山腹に忽然とあらわ
れた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な乗道でした。





ここにもかつて集落があったのだろう 傍らに墓地がありました



銅山越から馬の背へまっすぐ北へ下る泉屋道 2012.10.27.



紅葉した林の中の下り道 銅山峠ヒュッテの標識を見つけ、角石原から馬の背へ



銅山越の北側 角石原 上部鉄道停車場跡
銅山峠ヒュッテのすぐ横の広場 2012.10.27.



銅山越の北側 角石原 銅山峠ヒュッテ 2012.10.27.
森の中を降りて、ちょっと降り過ぎかと思ひだした頃、林の向こうに明るく開けた広場があり、小さな駅が見える。銅山峠の屋根をくり貫いた第一通洞が通じると、運び出された鉱石がここから上部鉄道で石山へとおろされた。ヒュッテのすぐそばに停車場跡があり、このままヒュッテの前を通り抜けると西赤石山・銅山越からの道と合流して東平への牛車道。また、もと来た道を引き返すと太平坑から東平へのトラバース道と馬の背を降って東平へ行く道。角石原は銅山越北側、銅山交差の結節点。



銅山越の北側 角石原 銅山峠ヒュッテ 2012.10.27.



ブッシュの中の踏み跡を志太平坑へ 2012.10.27
このブッシュの中で 向こうから来る人に出会いました
新太平坑の坑口側にいと親切におしえてもらいました
おたがい同好の志 ものつまやな〜と笑って分れました



馬の背へ下る道と分岐して そのまま山腹を遡へ 2012.7.27.
ヒュッテで教えてもらった太平坑・新太平坑へのトラバース道に行く



太平坑 坑口跡 2012.10.27.



谷を渡り口 目印に棒を置いといたと教えてもらった新太平坑への道





新太平坑 坑口 2012.10.27.

ここからさらに奥へ 東平への山腹を巻く道が伸びていましたが、様子がわからず。また 泉屋道・馬の背を下りたくて 分岐まで戻りました



森の中 きつい勾配の馬の背を降る途中 右手に山の中に、忽然と視界の仲に東平があらわれました



馬の背を降る泉屋道との分岐まで戻って そこから馬の背を降る 2012.10.27.



急な山腹斜面の上、周囲を山に囲まれて、別子銅山の新開港場の拠点として「東平」の街が建設された
周囲と全く隔絶した山の中 「東平」の街があった 今 東洋のマチュピチュと呼ばれる



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかがついていたのか……



東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.



馬の背の急な道も終わり、「東平」へ 谷に沿う平坦な石畳道 2012.7.27.



西側の谷筋の道と出会うと馬の背の急な道も終わり、谷に沿う平坦な石畳道 東平らも近い



第三通洞入口 2012.10.27.



狭い谷を急な谷川 唐谷川・柳谷川が水しぶきを上げて合流する このすぐ横に第三通洞の入口がありました



第三通洞入口 2012.10.27.





広場の南側から北側を眺めると坂の上に駐車場が見える



第三通洞 明治35年完成
明治44年別子山側に日通溝がぬけ、東平と日通がトンネルで結ばれ、別子鉱山の大動脈となった。
また、かご電車と呼ばれる鳥かご電車を連結して一般にも開放。昭和48年登山廃止まで多くの人をも運び続けた。



火薬庫



第三通洞のかご電車停車場

第三通洞のすぐ横が広場になっていて、川はトンネルで広場下を抜け、その北側山腹の斜面に停車場がありました。また、反対の南側の山腹に火薬庫がありました



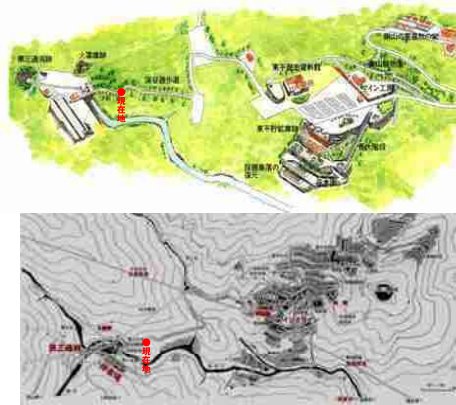
第三社宅の石垣を過ぎて
右側の尾根筋の先端を回りこむ坂道を降りて行く
いよいよ東平の中心部である 2012.10.27.



広場の西側に沿って北へ延びる枝尾根の向こう側が東平の中心部
山裾に沿って遊歩道が整備されている。広場から出てたところすぐ山側に石垣が続く。
この石垣の上が第三社宅が建ち並んでいた場所である。
石垣に沿って北へ延びる枝尾根の先端部を西に回りこむ



枝尾根の先端部にある駐車場に数多くの車が止まっている





トンネルの中に展示されていた
かご電車
このトンネルの向こうは東平歴
史記念館など東平の中心部



東平からながめる真っ赤な西赤石山の稜線 2012.10.27.



東平歴史記念館 インターネットより写真採取



枝尾根の先端部 トンネルに銅山の運送に使われた電車が展示されていました



広場西側メイン工房から西赤石山・銅山越の稜線を眺める
この広場の崖下に貯鉱庫やインクラインなど別子銅山の産業遺産が残っている



東平歴史博物館横から西側駐車場



メイン工房



東平の中心部 インターネットから採取
東平駐車場 新巻浜からここまでドライブウェイが繋がっている
ただし、鹿森ダムの南 河又で 県道47号からこの東平へ入る道
は狭く車の行き違いの問題など交通制限されている(私道???)



駐車場の北西 メイン工房から銅山越の稜線を眺める
2012.7.27.





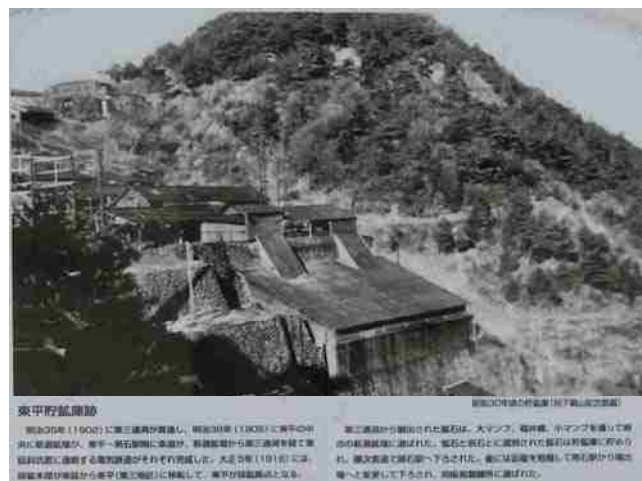
東第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27.
この上方に第三通洞により運ばれた鉱石貯蔵庫がある



第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27.



東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡 2012.10.27.



東平貯鉱庫跡
明治20年代(1900)に第三通洞が完成し、明治30年代(1900)に東平の中心部に貯蔵庫が、東平一帯に建設された。新設貯蔵庫から第三通洞を経て東平の中心部に運搬する電気鉄道が、大正10年(1919)に、東平貯蔵庫跡から東平(第三通洞)に延伸して、東平の中心部となる。第三通洞から運搬された鉱石は、大マツ、碓氷、小マツを通じて、東平の中心部に運搬された。鉱石と共に運搬された原料は貯蔵庫に貯蔵され、運次鉄道で碓氷峠へ下ろされた。後に碓氷峠を越えて碓氷峠から碓氷峠へと変更して下ろされ、碓氷峠で運搬された。



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上・下)から端出場への索道停車場跡(中)を眺める 2012.10.27.



第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上)から端出場への索道停車場跡(下)を眺める 2012.10.27.



東平より駒山越の山並 峠は右手の山で隠れている 2012.10.27



東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡(上)と鉱石を輸出場へ降ろす索道停車場跡(下) 2012.10.27



東平より駒山越の山並
駒山越の山で隠れている。2012.10.27

かつて、駒山越山です。駒山越は、駒山越と駒山越の
間を走る道路で、駒山越の山で隠れている。駒山越の
山並みは、駒山越の山で隠れている。駒山越の山並みは、
駒山越の山で隠れている。駒山越の山並みは、駒山越の
山で隠れている。駒山越の山並みは、駒山越の山で隠れ
ている。駒山越の山並みは、駒山越の山で隠れている。



貯鉱庫・索道停車場の崖の下には採掘集落が復元されていました



朝 新居浜駅で迎えに来てもらう約束をして
いたのですが、またまた ソフトバンクの携
帯が繋がらない。何度もトライするがだめ。
マイコンピア助子のマイクロバスは団体専用
で乗せられぬという。あきらめて、谷川の
旧道を約15時間ダムサイトの東端まで歩く。



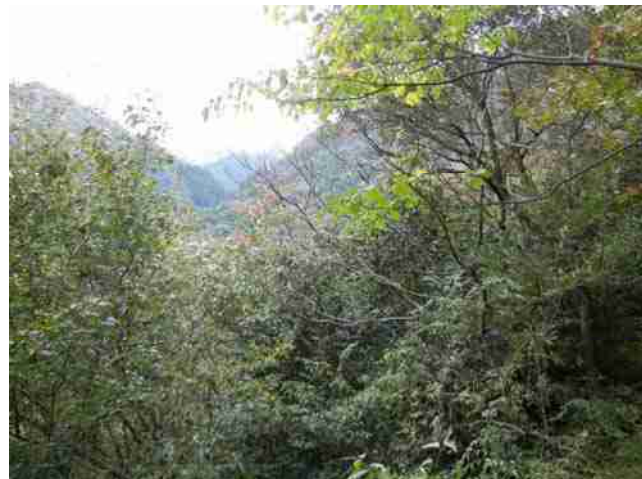
崖際を延々と続くきつい降り道 旧道とはいえ かつての東平と新居浜をつなぐ生活道路であった



東平から鹿森ダムへの旧道 谷の山腹のくぼ地に病院・娯楽場跡



木々の間からダム湖が見え出すとまもなく県道にでる やれやれである



東平から15時間 で新居浜側 銅山越 峠 下り
 朝10時 別子山村側登山口日着を出して 後4時15分新居浜側
 たっ 日がかかりの銅山越でした



朝 地域バスで白浦へ向かった県道 2012.10.27.
 連続するトンネルで別子山を越えて別子山村へと伸びている



やっと携帯が通じて タクシーに迎えに来てもらえる
 待つ間 ふっと崖を見ると渡りのサルが崖をよじ登っていました
 15分ほど待って タクシーが現われ、新居浜駅へ やれやれです



鹿森ダムのすぐ下のループ橋
 青龍橋 2012.10.27.

鹿森ダムサイトのすぐ下は
 傾斜が急なため、
 道はループ橋で下ってゆく



銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下には 開坑以来の墓所 龍塔婆山の遺構が見える
かつて この谷筋には別子銅山の跡施設・街が建ち並んでいた



新居浜駅に着いた時はもう夕暮れ
駅の向こうに銅山越の山々がシルエットで眺められました
念願の銅山越 満足感一杯の日でした 2012.10.27.



東洋のマチコピチコと呼ばれる旧別子銅山 泉平 2012.10.27.
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかがついていたのか……

